

教育理念

キリスト教の精神に従い、学校教育法の趣旨に基づいた教育を行う。
感謝の気持ち、祈る心を大切にし、自分のしたことと向き合うことや、間違ったことをしたら謝ること、相手を許すことを伝え、自己責任を持てる人になるように理念を掲げ、教育する。
遊びを通して探求心を育て、人とのかかわりの中で自分の思いを友達に伝え、自他を認め、一人ひとりを大切に教育し、自己肯定感を育てる。

教育目標・方針

- 健康な体と心を養います。
- 命を大切にする心を育てます。
- 互いに思いやる優しい心を育みます。
- 基本的な生活習慣・態度の基礎を培います。
- 一人ひとりの個性を伸ばし、感性を豊かに養います。

本年度の学校評価の具体的な目標や計画

- 子どもたちが主体となって園生活を送る。
- 一人ひとりが自分の意見を持ち、自己表現を楽しみ、自信を持って生活する。

取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自己肯定感を育てる	できないことをできるように一緒に取り組み、自信を持てるようにし、自己肯定感を育てる。
思いを言葉で表現し、伝えられるように導く	言葉の楽しさや、「伝える言葉」の種類を増やせるように言葉遊びを楽しんだり、絵本などの読み聞かせを通して語彙を増やしたりする。 様々な人とコミュニケーションをとることによって、多様な感覚を身につけ、自信をつけていけるようにする。(外国人、高齢者など)
様々な表現活動を楽しみ表現力を養う	美しい日本語を聞いたり、絵画の講師を招いて絵を描く楽しさを感じたりする。 子どもの言葉の乱れが増えており、youtubeやテレビで耳にして意味もわからずに使っている言葉が聞かれている。日本語の美しさ、響き、リズム、楽しさを感じ、言葉を様々な形で表現していく楽しさを知り、言葉の奥深さを知る。 親子で体操する機会を設け、親子で体を動かす楽しさを伝えていく。 4年前、賢い体づくりという題目で講演していただき、体を正しく使っていくことによって、運動能力が上がっていくことを知った。自分の体を守るためにも空間認知能力を身につけ、運動能力が高まるように研究を重ねている。 演奏家を招き、音楽を楽しむ情操を育てる。
子どもの視点を抑える	子どもの視点を意識し、何に興味関心があるかを引き出し、環境を整える。カリキュラムを見直し、興味関心を広げられるように配慮を行っていく。

保育の在り方

A

年長児

- 「恐竜博物館をやりたい」とこつこつと制作をしていた一人の子どもの様子を見て、手伝おうという流れができ、クラス全員で恐竜を描いたり、リサイクル用品で制作したり、粘土で骨を作ったりして恐竜博物館を開催し、年中児、年少児を招いて作品を展示したり、ガイドをしたりして楽しませた。そのことがきっかけとなり、鉄道博物館や、パトカー作りと各々がやりたいことを「やってみよう」という気持ちがわき、やりたいことを見つけて少人数で始めたことが、クラス全体で、またはクラスを飛び越えて作品の提供をする子どももいて、楽しむ姿がみられた。
- 年長児が、4月、5月に年少児のお世話をすることや、自分たちもお世話をしてもらったことを思い出して、自然と一緒に遊ぶ姿や仲間に入れる姿が見られた。また、年少児に合ったルールを考えて遊ぶ姿が見られた。
- ごっこ遊びや生活の中で、困ったこと、問題が起きると「～だけど、どう思う？」と大人が判断し伝えるのではなく、子どもたちと話し合い、それぞれが考えて、意見を言うようになった。話し合う経験を通し、自分が正しいと思ったことを人に伝えたり、友達の意見を聞いたりし、嫌なことをされても言わなかった子がやめてほしいことを伝えられるようになった。聞き流していた子どもが友達の話を聞くようになった。友達がボソッと共感してくれたことや、認めてくれたことが自信につながり、自分の意見を言えるようになった。

全体

- 日々の生活で繰り返されることによって、次は何をすることと分かっている子どもたちが、必要だと思うものを準備したり、片付ける場所まで運んでくれたり、子どもたちなりに自分で考えて生活する姿があった。
- 職員室に入室してもじもじする子より、堂々としている子が多く、自己アピールをする子も多くなった。
- 意見を発信したくて、話している人がいても遮って話す子どもがいたが、今は聞くときということを根気よく伝え、必ず後で話しを聞くようにしていったら、「話を聞くとき」が分かるようになり、我慢することができるようになってきた。

教師としての資質、保育の質向上

A

- 言葉については、絵本を探し、「ふわふわとちくちく」（監修 齋藤孝 絵 川原 瑞丸 出版 日本図書）をみつけて読み聞かせた。そのあと、「その言葉はちくちくだよね」「ちくちくはいやだな」子ども同士の会話でいい影響を与えた。
- 「いらいらする」と言っていた子どもの気持ちを心に寄り添い、気持ちをいろいろな表現で伝えていったことにより、ドキドキする、不安などの言葉を知っていき、感情を言葉で表現できるようになった。
- 月刊絵本「こどものとも」を通して、何度も読み聞かせることによって年少児は文字が読めなくても、それなりにそれぞれ読んでいた。
- 年長児は、俳句を学び、5・7・5の言葉を考えて、夏の体験、五十音表を埋めてカルタ作りを楽しんだ。教員が、子どもが出した言葉を書き出して、様々なつなぎ方で子どもは言葉を選択し、俳句を完成することができた。それにより、言葉の面白さを感じていた。
- 年中児、年少児も俳句の穴埋め問題を、自分の言葉で考えて発言していた。
- 職員同士で毎日、子どものこと、その日の出来事を話し合うことによって保育の振り返りと反省ができた。また、他クラスのこと、他クラスの子どものことも知ることができた。交流デいの縦割り保育の時にも、担任を入れ替えて子どもを知る研究保育にも準備して臨むことができた。
- 夏休みの研修が好きで、学び得ることができていることを嬉しく思っている。
- 子どもたちと歌いたい歌を気に留めて聴いて子どもに選択し歌う歌を決めることができた。それにより、歌に消極的であった子どもたちが、歌を歌えるようになった。歌詞カードを作り、自信を持って歌えるようになった。
- 外国語を通して、日本語だけでなく、世界には違う言葉があることを知る。瞳の色と髪の毛の色肌の色が違う人がいることを知ることを目標に、英語遊びを行った。モルドバ出身の先生から学び、モルドバのことも学ぶ機会を作り、他国の生活や、言葉、どんな国なのかを興味をもって知ることができた。

保護者や地域への対応

B

- 親子体操を体操の先生にやっていただき、親が身体だけで遊ぶことを知り、とても喜んでくれた。また、親も体を動かせる機会となり、良い表情で参加していた。
- コーラスサークルに参加してくださるお母様方の歌声できれいな歌声を聴き、歌いたい気持ちを高められた。
- 保護者にわかっていただきたいことはわかるように伝え方を考えていく。
- 保護者の要望により、改善したことをすぐに伝えていく。
- 地域のご高齢の方を招いて関わり、招く喜び、発表する嬉しさ、関わる楽しさを感じることができた。また、招いた方に喜んでいただき、人と関わることに自信がついた。
- 小学校に行き、小学生のこと、学校の大きさなどに興味を持ち、期待するようになった。

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・子どもたちが主体となって園生活を送る。

A

- ・ 子どもたちがやりたいことを発信し、それに取り組むことができ、やり遂げたことにより、達成感が自信につながった。
- ・ 生活の中で、次にやることを子どもが準備したり、片付けたり、自主的に園生活を送る姿が見られた。
- ・ 年齢に応じて、遊びのルールを変え、異年齢で遊ぶ姿が見られた。
- ・ 絵本の教材から、友達の言葉について、自分の思いを伝えたり、どういう言葉を使ったらいいのか、言い合えたりする姿が見られた。
- ・ 目的に向かって、友達のできたことを認め、自分も頑張って練習する姿が見られた。また、できることは友達に教えたり、やり方を見せてあげたり、やってあげたりする姿が見られた。
- ・ 今後も主体的に生活ができるように、教員の言葉かけをなるべく減らし、クラス皆で様々なことを話し合い、決めていかれるように配慮していきたい。

・一人ひとりが自分の意見を持ち、自己表現を楽しみ、自信を持って生活する。

A

- ・ 自分の思いにふさわしい言葉で伝えることができるようになった。
- ・ 様々なことを話し合って決めていく中で、自分の思いに共感してもらえたり、友達の意見を聞いてより思いが深まったりし、意見が伝わることの嬉しさを知った。
- ・ 友達から認められることで、自信が出てきて、できないことにもチャレンジするようになった。
- ・ 困ったことや悲しい気持ちを先生や友達にわかってもらい、励ましてもらうことで、気持ちの切り替えができるようになった。また、その時にかけてもらった言葉を友達にも使えるようになった。
- ・ 音楽のリズムに合わせて好きに動いていくことで、曲調によって動きたい動きが出てきて、一人で表現するだけでなく、友達とも同じ動きで表現でき、その喜びを感じた。
- ・ 様々な人と関わる中で、はじめは関われなかった人にも、会う回数が重なっていくうちに、慣れていき、自分のことも見てくれて、話すことができることを嬉しく思い、自分から関わるようになった。
- ・ 語彙が乏しかったり、意味も分からずに使ったりして友達を悲しませることもあるので、言葉の楽しさや、「伝える言葉」の種類を増やせるように、絵本「ふわふわとちくちく」を読んだり、俳句により言葉遊びを楽しんだりすることで、語彙を増やせた。
- ・ 絵本シネマを観ることにより、話の世界に入り込み、心の落ち着きを感じられた。また、その話をもとに子どもとの会話、子ども同士の感想のやり取りもあった。遊びの中ではライトテーブルを使って、言葉を引き出し、物語作りも楽しめた。
- ・ 様々な人とコミュニケーションをとることによって、広がりを感じ、自信をつけていけるようになった。(外国人、高齢者など)

-
- A 十分に達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが成果が十分ではない
 - D 取り組みが不十分である
-

保護者園評価アンケート結果

(あてはまる、ややあてはまると答えられた方を回答者に対してパーセンテージで表しました)

	項目	%
1	お子様は、幼稚園生活を楽しんでいる。	100
2	幼稚園は、健康に過ごせるように子どもに指導している。	100
3	幼稚園は、一人ひとりを大切にする教育をしている。	96.2
4	幼稚園は、思いやりや優しい心を育てている。	100
5	幼稚園は、生命を大切にする心を育てている。	100
6	幼稚園は、お子様の安全を守るための取り組みを行っている。(避難訓練等)	100
7	幼稚園は、幼稚園施設の整備や園内環境の美化に努めている。	96.2
8	教職員は、来園時や電話などの際には、親切・丁寧に対応している。	100
9	幼稚園は、地域・保護者と協力しながらお子様を教育している。(保幼小連携)	100
10	幼稚園は、保護者の要望を受け止め、幼稚園の改善に活かそうとしている。	92.3
11	幼稚園は、教育理念や教育方針を分かりやすく伝えている。	100
12	幼稚園は、お子様の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて計画している。	100
13	幼稚園は、お子様が様々な表現を楽しみ、表現する意欲を発揮させることができるような環境を整えている。	96.1
14	幼稚園は、様々な表現に触れさせ、情操を育て、自己表現できる人に育てている。	96.2
15	幼稚園は、身近な自然や社会とかかわることができるように配慮している。	100
16	幼稚園は、お子様を温かく受け入れる環境を作り、人とかかわる力が育つような配慮をしている。	100
17	幼稚園は、お子様の困ったことや保護者の悩みや相談に応じている。	100
18	幼稚園は、園児の食育に力を注いでいる。	100
19	幼稚園は、外国語や外国人と触れ合う機会を設け、お子様の興味・関心の幅を広げている。	100
20	幼稚園は、環境の大切さ、自分の手で物を作る喜びを伝えている。	96.1
21	幼稚園は、お子様の身体能力が高まるよう努め、空間認知能力や、体幹を鍛えている。	100
22	幼稚園は、お子様を自己肯定感が持てるように育てている。	100

ご意見

- 子どもの不安な時の対応や、できなかったことが少しずつできてきていることを認めてくださっているのを聞いて安心しました。子どもたちを見守り、素敵な促し方、個々を大切にしてくださってくれてありがとうございます。
- 親子ともども、毎日健康に楽しく通えているのは、先生方の温かいご指導の下にあると感謝の思いです。子どもたちのやりたいこと、やってみたいことに応えていただき、挑戦する機会をたくさん与えてくださり、ありがとうございます。また、金曜の帰りの会の様子や子供の作品が毎週見られるようになったことがよかったです。
- 仕事を再開するにあたり、朝の預かりをしていただけると助かります。預かり保育の締め切りが前の週の週末でなく当日であると助かります。1時間単位で預けられると理想です。
- 先生方のご指導や、園の行事などとても満足しています。子どもも毎日幼稚園に行くのを楽しみにしています。
- 少人数故に目が行き届きすぎている部分があると感じます。先回りして声掛けをするのではなく、子どもに失敗する辛さや苦しい経験をさせることも必要だと思います。周りに察してもらうのを待つのではなく、自分で「失敗した」「助けてほしい」と言い出せるように。時にはじっと待って見守っていただけたら幸いです。

今後、取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
様々な表現が実現できる環境設定を整える	子どもが表現したいと思えるような素材を準備し、安心してその環境にかかわっていけるようにしていく。 子どもが自分たちで考えていかれるように、大人の言葉かけを減らし、話し合っ て決めていかれるように配慮していく。 プロの方を招き、表現の楽しさを感じる。
語彙を増やし、自分の 思いを言葉で表現できる	絵本を研究し、絵本を読み聞かせる。様々な言葉から、自分の思いを表現でき る言葉を見つけていく。
自然を守ることを 伝えていく	ごみの分別について話し、リサイクルについて学べるようにしていく。身の回りの 自然にも、形態が変わらないようにするために必要なことを学ぶ機会をつくり、 自然を守るために自分でできることについて考えられるようにする。
身体を自分の意のままに 動かす	様々な動きをし、正しい体操の仕方を知っていく。 遊びながら、いろいろな動きに挑戦していく。

令和7年度 幼稚園教育目標

- 子どもたちが主体となって園生活を送る。
- 表現を楽しみ、表現する意欲を発揮する。

学校関係者評価委員の方の意見

- 運動について、ラジオ体操も有効だと聞きましたが、ただ動くだけではなく、きちんと指導していることが良いと思う。
- 研修に行けなかったのは、なぜか？
人手不足で普通の任務が大変だったこと、誰か休めば、休めないという呪縛から心身疲労を
起こしていたように思う。
- どこも人手不足で、抱え込みのようなものがある。実習生を採用につなげていけるように
したらどうか？
- 小さい頃から外国人と接して、ネイティブの英語に触れることは、羨ましい
- 根気よくものづくりができる環境があり、大気のことなど学ぶこともできて良いのではな
いか

令和6年度 学校関係者評価報告書

令和7年3月28日に学校関係者評価委員会を開催しました。

事前に令和6年度自己点検評価表を読んでいただき、評価委員との意見交換を行いました。

1. 本年度の重点課題

- 子どもたちが主体となって園生活を送る。
- 一人ひとりが自分の意見を持ち、自己表現を楽しみ、自信を持って生活する。

2. 評価項目達成および取り組み状況

- 英語は、モルドバ出身のエレナ先生が担当し、手遊び、歌、絵本など読み聞かせてくださり、初めは見ていただけだった子どもたちが、徐々に歌ったり言おうとしたりするようになった。モルドバの国の写真を見せて、モルドバのことを話してくれたことで、ウクライナ語も知り、モルドバはどのようなものが有名なのかも知ることができた。
- 体操は、伸ばすところ、体の使い方、注意する点を教えてもらい、安全に行い、かつ、体の使い方を習得できるように取り組めた。子どもたちに運動ノートを持たせることで達成したい目標ができ、そこに向かって取り組んだ。
- 言葉は、様々な言葉を引き出すために俳句の先生を招いたり、様々な心情や表現を引き出すためにライトテーブルを活用したりした。えほんシネマを観ることによってえほんからイメージの世界を広げ、声色や声の大きさにより受け取る感じ方が違うことも知った。様々なイメージの物語をライトテーブルで表現し、お話を創り出したり、お話の世界のやり取りを友達と楽しんだりした。

3. 具体的な目標の総合的な評価結果

- 英語は、歌や手遊びを一緒にやれるようになったり、「にじいろのさかな」の絵本の読み聞かせをじっと聞いたりしていた。モルドバに興味を持ち、外国のことを考えたり、国旗に関心を持ったりした。また、文化の違いや言葉の違い、国の大きさなどに関心が持てた。
- 体操は、きちんとしたポイントを押さえて柔軟体操ができるようになった。また、友達が達成していく姿や応援してくれる姿を見て、やってみよう、やればできるのではないかと怖がらずに挑戦し、繰り返し行うことができた。
- 言葉は、様々なことを通して、語彙が増えた。また、言ったことに対して肯定的に受け止められたことから、発言したいと思う子どもが増えて、挙手して自分の意見が言えるようになったことを感じた。

4. 今後取り組む課題

- 子どもたちが主体となって園生活を送る。
- 表現を楽しみ、表現する意欲を発揮する。

5. 学校関係者の評価

- 英語は聞く機会が増えれば反応が増えていくと思う。
- モルドバ出身の先生と触れ合うことで、国際感覚も園児に伝わり、意味のあることだと思う。
- 小学校ではネパール人が増えている。多国籍の子どもがいるので慣れるといった意味でとても良いと思う。文化や生活習慣が違う人もいることを知ることができるのは大事ではないか。
- 2歳児は、外国人の先生に対し、興味や関心、好意的な姿や恐怖心などの感情があった。少しずつ慣れていくことができた。
- 英語でも恥ずかしがって言えない子どもは多いが、言ったことを肯定的に受け入れてもらえれば、英語を発する意欲につながるのではないと思う。
- 体操は、2歳児クラスで、体操の先生から、今やっている運動はこういうことにつながりますよと言葉で子どもの役に立つことを伝えてくれたので、保護者にとっても新鮮だったし、学ぶ機会となり、とても良かった。できる、できないに注目しがちだったが、先を考えて取り組もうと思える言葉だった。
- 言葉を受け入れられて自己肯定感を育てることができるのは良いことだと思う。日本人の高校生は当たり前のことは話さないが外国人は当たり前のことに感動し言葉を伝えられる。フィードバックを受けることでさらに自己肯定感が育つと思う。
- ディスカッションできない子どももいる。幼稚園からできるようになれば良いと思う。
- コミュニケーション能力は、就職の時にも重視される。今から育てられれば、良いことを感じる。
- 日本の教育で大切にしてきた道徳や集団としてのマナーなど、大切なことを守っていくために、子ども目線の生活や子どもの立場で必要なことや優先されるべきことを考えていく世の中になっていかないといけないと思う。今は大人の立場、大人の利益が優先されている。意見の交換は大切だが、教育、子どもの立場を最優先にした考え方を常に持たなくてはならない。国の政策に乗らないと運営が厳しくなるが、社会の構造を変えていかないといけないと思う。